

<くうちゅうさんぽ にいこう!>

9月14日(土)～15日(日)、年長児2名、3歳児1名、学童=1年生2名、2年生1名、
4年生2名、5年生1名の計9名が参加しました。

『くうちゅうさんぽ に行こう!』という共通の興味を持ち、チャレンジしていることに
共感する友だちや大人に囲まれての二泊二日でした。

チャレンジしていることに共感してくれる人がいることは、とても大切なことです。
それも、確認し合っているわけではないですが、そのメンバーがここにいること、
そしてその仲間と支え合っていることの充実感は、このメンバーでしか味わえない
ものだと思います。男の子は4名、女の子は5名、そして学年も違う仲間と一緒に
活動することは、貴重だと思います。

最初予定していた乗馬は、できませんでした。にじます掴みは、その分ゆっくりと
体験することができました。最初、水が冷たく感じたのですが、にじますを捕まえる
のことに一生懸命になっているとその冷たさは感じなくなっていました。



求められているのは、
「生きる力」と「人間力」の育成です。

ニジマスを掴む前は、「私は、ニジマスは食べない」と言っていた子も「掴んだニジマスは、みんなに食べてもらえて、うれしいので、掴んだのに食べないのかわいそうだと思うよ。」という話をしながら、ニジマスを焼きました。「いただきます」は、何をいただくのかというと、ニジマスの命です。ニジマスにありがとうを言うために、「いただきます」をします。では、いただきます」あいさつの後は、みんなきれいにニジマスを食べました。骨だけになったニジマスを見て、「すごくたくさん骨があるんだね。」とびっくりしていた子もいました。家庭で食べる魚は、ほとんど切り身で、骨はその部分でしか見たことがないのでしょうか。ニジマス一匹まるまるの骨を知ることができて良かったです。食べた後の感想は・・・「おいしかった」でした。

自分たちで捕まえた魚を目の前で焼いて食べる経験は、いざという時の『生きる力』となります。

このあと、みちのく湖畔公園(南地区)に行き、昼食を食べ、体を動かしてから、蔵王町の万風窯で陶芸をしました。説明を聞いた後、お皿か茶碗・カップの中から自分で作りたいものを考え、選んで作りました。説明の内容を聞きなが、作品を作る工程のイメージが持てないとできないことです。イメージ遊びが得意な子どもたちは、ちゃんとイメージをしながら素敵な作品を作りました。しっかり作品を乾かしてから窯で焼き、その後に薬品をかけてまた窯で焼くため出来上がりまで2カ月くらいはかかるそうです。

出来上がりが楽しみです。